

災害の被災者に 生活再建のための 支援



並木 敏恵
議員

市内で火災が相次ぎ、亡くなった方もいます。

火災の多くは予防できますが、放火やもらい火で、何の落ち度もなく住宅や財産を失った方には、住宅再建のために行政の支援が必要です。

市のお見舞金の支給金額、件数について伺います。

また、こうした困難に寄り添って、生活再建のために一層の支援を求めますが、その認識を伺います。

当面のホテルなどの宿泊代、冷蔵庫、洗濯機などの家財道具、焼けた住宅の解体、撤去処分の費用を補助できないか。ペットのいる方は、市営住宅で対応できないか伺います。

○福祉部長

見舞金の支給額は、家屋全焼で10万円、半焼で5万円、死亡で10万円となっています。令和5年度の支給件数は、全焼が9件、半焼が2件です。被災者への支援の必要性は

認識しており、そのため、救援物資の提供や災害見舞金など、生活支援を行っています。現在、宿泊費、家財道具、住宅の処理費用の補助は行っていないです。

○都市整備部長

火災の罹災者に、当面の生活の場として市営住宅を一時的に使用していただくことで、生活再建を支援しています。市営住宅では、動物の飼育は禁止していますので、火災による一時入居も同様です。

このほか

○住み続けるための「足」の確保へデマンド交通の導入を

教育における タブレットについて



平沢 一博
議員

徳島県の県立高校などに配布した1万6500台のタブレットのうち、故障台数が約6割に達したとのこと。令和4年から本格的にスタートしたAIDリルの活用を含め本市の学校教育でタブレットは欠かせない存在になっており、情報活用能力を身に付

特定外来生物や 外来生物などによる 被害への対策について



鬼丸 裕史
議員

桜や梅の木を食害し、枯死させる、特定外来生物であるクビアカツヤカミキリによる被害が、春日部市内でも出たとの報道がありました。

また、ポピーに似た花で素肌にかぶれを起こすなど、人の身体に被害をもたらす植物の外来生物であるナガミヒナゲシが、春に市内の至る所で咲きました。

市ホームページやSNSだけでなく、市民の皆さまにきめ細やかに情報提供し、注意喚起を行うことが必要であると考えます。

そこで、市内における特定外来生物や外来生物などによる被害状況と対応について伺います。

○環境担当部長

市内における被害状況ですが、令和5年に道の駅「庄和」やその周辺で、クビアカツヤカミキリによる桜の木への被害や、ツヤハダゴマダラカミ

キリによるカツラの木への被害で、幹を枯死させるといった被害が確認されています。対応については、薬液の注入や伐採するなどの措置を講じているところです。

また、ナガミヒナゲシについては、市ホームページで駆除方法や毒がある旨の周知をし、注意喚起を行っています。今後については、市公式SNSや市の主催イベントなどにおいても情報発信に取り組んでいきたいと考えています。

このほか

○水道事業におけるゼロカーボンシティ推進について

この虫を見かけたら連絡を！！

幼虫はもも、すもも、うめ、さくらなどの樹木を食い荒らし、樹を枯らす特定外来生物

クビアカツヤカミキリ

体長：2～4cm
特徴：首の周辺が赤い
成虫発生時期：5月下旬～8月中旬

被害を防ぐため「踏みつぶして」ください！！

特定外来生物 提供：和歌山県

内牧地区における 交通施策について



金子 進
議員

本市のコミュニティバスである「春バス」については、第四次春バス運行計画において、内牧地区で運行していた「豊春駅・内牧・北春日部駅ルート」が、ルートの再編方針により、令和6年1月から廃止となりました。

官民連携や地域連携を取り入れた、横浜市都筑区にある都田・池辺地区では、地域で組織された非営利法人を運行主体として、日中の移動に困りの方の買い物や通院など、移動支援を行っています。利用者には、燃料費として実費を負担し、横浜市は車両に対する助成、運行の支援を担っています。このような取り組みを内牧地区で実施する場合の市の考えを伺います。

○都市整備部長

横浜市都筑区の事例は、地域の方々が主体となって組織された協議会が、地域の共助による移動手段確保の取り組み



横浜市都筑区 都田・池辺地区ボランティアバス

みとしてボランティアバスを
実証運行し、その成果を基に、
地域による自主運行の体制を
整えたものです。同様な取り
組みを内牧地区で実施するこ
とは、地区のかたがたの移動
手段として、暮らしやすい地
域づくりのためにも、大変効
果的な施策だと考えます。

今後は、地域のかたがたと
意見交換を行いながら、実現
の可能性について協議してい
きたいと考えています。

このほか

○内牧黒沼公園について

○春日部駅の新たなランドマ
ークづくりについて

本市の公共施設の 有効活用について



大里 昇
議員

本市は道路などのインフラ
施設や学校など、多くの公共
施設が整備されてきました。
しかし、更新時期を迎え、大
規模修繕費なども巨額で、財
源が限られていることも憂慮
しています。公共施設の適正
配置に注目し、これからは財
政面でいかに歳出を抑えるか
も重要課題であると思います。
安定した財政に向けては、
公共施設の維持管理費の縮減
や閉鎖施設の有効活用を図る
ことが重要だと思われま
す。
そこで、公共施設マネジメ
ント基本計画では、閉鎖する
施設をどのように有効活用し
ていくのか、また、Park
+PFI制度を導入した場合、
財政負担軽減などがどのよう
に図られるか、お伺いします。
○公共施設事業調整担当部長
公共施設マネジメント基本
計画においては、施設の複合
化、譲渡、PFIの導入など
を閉鎖や廃止する施設の有効

活用の取り組みとして位置付
けているところでです。

○建設部長

Park+PFI制度によ
る財政負担軽減策などは、民
間事業者が設置する施設の収
益を活用して一部の費用負担
を行い、公園管理者の市が整
備する公園施設の建設を行う
ことから、市の歳出軽減に寄
与するものです。また、設置
する施設に対して、市は使用
料や固定資産税などを徴収す
ることから、市の歳入増加に
寄与するものです。

このほか

○本市の生活保護について

「ゴミ集積所」



会田 吉幸
議員

ごみ集積所は、主に自治会
の班単位などで場所が決まっ
ていると思いますが、自治会
に加入しないとごみは出せない
のか、などの疑問が生じま
す。そこで、以下伺います。
①地域のごみ集積所は主に居
住地域の自治会が管理してい
ると思われるが、転入してき

て間もない方から、ゴミ集積
所利用について相談があった
場合、市はどのように対応し
ているのか。

②日本語が堪能ではない外国
人への、ごみ出しを含めた日
常生活へのサポートは、どの
ように行っているのか。

○環境担当部長

①転入した方で、利用できる
ごみ集積所が分からない場合
は、まずは近隣のごみ集積所
を地図上でお示しし、その維
持管理をしている利用者の方
もしくは住宅を仲介した不動
産会社などに相談いただくよ
う案内しています。

○市民生活部長

②本市においては、日本語に
加えて、英語、中国語、韓
国・朝鮮語の表記を併用し、
主要施設の場所を地図上に記
載した多言語版のかすかべガ
イドマップを配布しています。
また、関係機関が行ってい
るサポートとして、春日部市
国際交流協会の日本語教室を
ご案内しています。この日本
語教室は、日本語が分からな
い方が日常生活を送る上で持
つ不安や悩みを少しでも解消
できるようにコミュニケーション
の手段としての日本語を
学習できる場となっています。

北春日部周辺の まちづくりについて



阿部 雅一
議員



3月の北春日部駅周辺地区土地地区画整理組合総会では、岩谷市長、地元市議会議員4名がお招きいただき、この總會の方針の決定事項において、事業費圧縮のため、業務代行者の清水建設株式会社がやむを得ず変更されるとの内容がありました。

区画整理組合においては、事業推進の身を切る調整を行っている中、なにぶんにも大企業なため、後任の業者さんとの契約が直ちに締結されるものではないと承知しています。しかし、この事業を待ち望んでいる内牧地区のかたがた、私も4名の地元市議会議員は一日も早い工事着工を望んでおり、一致団結して本市にあらゆる支援策の働きかけをしていきたいと考えています。

そこで、この北春日部駅周辺地区土地地区画整理事業の現在の状況をお伺いします。

○都市整備部長

北春日部駅周辺地区土地地区画整理事業について、事業主体である土地地区画整理組合に確認したところ、現状は、今年3月に開催された組合総会后、工事施工を希望する後任の事業者と本年秋頃の業務代行契約の締結に向け、工事内容の精査や工事工程などの検討など、さまざまな調整を行っているということでした。

このほか

○市立医療センターの経営状況について

○消防施設の老朽化対策について

除草について



今尾 安徳
議員



本市は、現在、北春日部駅周辺地区土地地区画整理事業に取り組んでいます。

事業主体は、土地地区画整理組合ですが、この間の物価高騰などの影響で、事業の見直しが現在進められています。

事業が停滞する中、雑草繁茂が進み、地域住民の方から

周辺環境の悪化や、犯罪などの心配から、除草対応を求める声が寄せられています。

実際に、北春日部駅から夜遅く帰宅する方や、一緒に駅を降りた女性などからは、危険を感じるので、人と離れないように歩いている、との声も寄せられています。

事業主体は組合とのことですが、組合設立の前は、市も通学路周辺の除草などをできる範囲で行っていました。

市民の安全のため、市としても何らかの対応が必要ではないかと考えます。

市の考えをお聞かせください。

○都市整備部長

北春日部駅周辺地区土地地区画整理事業については、令和4年に設立された土地地区画整理組合により事業を行っています。除草については、土地の所有者や管理者が適正に管理することが原則で、本事業の区域については、組合において対応しています。

事業地の除草要望などは、速やかに組合にお伝えし、対応をお願いしています。

このほか

○「子育てするなら春日部に」新たな施策と情報発信を

がん予防について



藤原 智子
議員



子宮頸がん予防のためのHPVワクチン接種は、勧奨差し控えの影響を受けた対象者に、キャッチアップ接種が期間限定で設けられています。接種率は伸び悩んでいます。

報道された当時のインパクトを考えると、健康被害への懸念を払拭することは容易でないと思います。

しかし、市民の命に関わる問題です。ワクチンの安全性に対する正しい理解の不足が原因で、公費での接種期限（令和6年度末）を迎えてしまう方がいないように、プッシュ型で情報発信できる、市の公式ラインやX、Instagram、フェイスブックなど、SNSを使つての周知もするべきと思いますが、いかがでしょうか。

○健康保険部長

HPVワクチンの過去の接種者数の動向では、夏休みを利用して、8月に接種者が増

加する傾向があります。

本市では、6月にはがきでの個別勧奨、その後、国からのSNSなどを活用した情報発信に続き、1回目の最終接種時期となる9月に、市広報紙へ接種勧奨記事の掲載を予定しています。このことにより、対象者だけでなく、家族や友人など、広くHPVワクチン接種情報を話題としてもらうことで、周囲からの後押しも期待でき、効果的な接種勧奨になると考えています。

このほか

○自転車用ヘルメットの着用促進について



キャッチアップ接種（イメージ）

企業版ふるさと納税について



永田 飛鳳
議員



岩谷市長は、令和4年・5年・6年の施政方針でも、私が令和4年3月に行った一般質問の答弁でも、企業版ふるさと納税を税外収入の確保として「積極的に取り組む」、「私自らがトップセールスでPRする」と意気込んでいたと思います。

ですが、ふたを開けてみれば、企業版ふるさと納税の実績は令和3年0件、令和4年1件、令和5年2件。トップセールスで取り組むと意気込んでいた割には、結果が芳しくないと思うのですが、岩谷市長は具体的にどのようなトップセールスを行ってきたのか。併せて、それに対する自己評価を伺います。

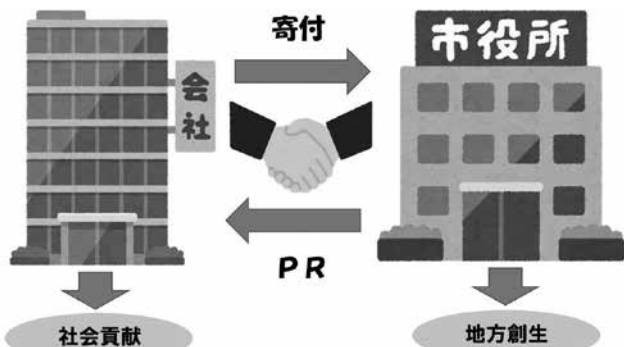
○市長

個人向けふるさと納税については、私自らも市内業者などに直接足を運び、ご案内し、新規事業者の獲得と新たなお礼品の提供、また、額の増加

につなげてきたところです。企業版ふるさと納税については、十分な取り組みができていないと認識しています。今後は寄付先として本市を選んでもらえるよう、さまざまな機会を通じてPRしていきます。また、本市の地方創生に向けた取り組みを、企業の皆さまにご賛同いただくことが大変重要と考えており、市の取り組みを丁寧に説明し、改めて私も含め積極的にPRしていきたいと思っています。

このほか

○2024年問題解決のための取り組みについて



企業版ふるさと納税 (イメージ)

春日部夏まつりの課題について



山口 剛一
議員



春日部夏まつりは「安定的な運営」という観点から、さまざまな課題があります。

大人みこしパレードに参加する各自治会で集めている夏まつり特別会計は、20%〜30%という大幅なダウン。第47回春日部夏まつりが、約480万円、昨年の第51回は約880万円と、事業費の大幅な上昇。一方で令和5年「大風あげ祭り」事業費は、約1900万円です。

今年の春日部夏まつりですが、県道春日部停車場線にトラックを使用した有料の機敷席を設置すると伺っています。安全面での十分な配慮が必要と思われるが、なぜ有料の機敷席を設置するのか、お伺いします。

○環境経済部長

実行委員会としては、20基以上のおみこしが豪快に練り歩くパレードを、ゆつくりと鑑賞していただける場所を提

供することで、春日部夏まつりの観光資源としての魅力、価値を高めるとともに、多くの方に来年以降もお越しいただくことを目的として取り組んでいるものです。

市としても有料観覧席販売の収益を夏まつりの財源の一部として活用することで、今後も夏まつりが実行委員会により、安定的に運営されることを期待しているところです。

このほか

○本市の働き方と職場環境について

○春日部市における国際交流事業の課題について

春日部市の治水対策について



荒木 洋美
議員



近年、地球温暖化などの影響により、ゲリラ豪雨や降ひよう被害など異常気象に見舞われています。

昔に比べ、雨の降り方が尋常ではなく、治水対策の強化は極めて重要です。

春日部市では、氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対

策として、内水氾濫に対応するための排水ポンプ施設の整備とありますが、庄和地域の下柳、水角地区の浸水対策についての考えをお伺いします。

○建設部長

はじめに、下柳地区の浸水対策は、春日部市都市インフラマネジメント河川計画に基づき、今年度は、埼玉葛城農道と国道16号との交差点の西側にある下柳川端排水機場で、老朽化した口径250ミリメートルの排水ポンプ2基の更新工事を予定しています。

次に、水角地区の浸水対策は、今年度は、中川へ雨水を排水する水角排水機場の自家発電機を更新する予定です。

この排水機場は、現在、地元のかたがたに運転管理を委託していますが、令和5年度より、職員による現地調査や、地元のかたがたのご意見を聞くなど、排水機場の自動化に向けた検討を実施しています。このため、設備更新に併せて、令和7年度までに、排水機場の自動化が図られるよう計画していきます。

このほか

○SDGsの取り組みについて

○共生社会の取り組みについて